

日本産業衛生学会

第57号 平成28年4月1日

産業医部会会報

公益社団法人 日本産業衛生学会 産業医部会事務局
〒160-0022

東京都新宿区新宿1-29-8 公衛ビル内

TEL 03-3356-1536

FAX 03-5362-3746

e-mail:sanei.4bukai@nifty.com



巻頭言

『産業医部会に期待するもの』

日本産業衛生学会中国地方会長

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科

公衆衛生学分野 教授

荻野 景規

私は産業医を勤めて、約28年となる。山口大学、金沢大学、岡山大学と大学の公衆衛生学で教育・研究をしながら、それぞれの赴任地で大企業の嘱託産業医を続けてきた。内科の経験が約8年あったことと、保健師さんの心強いサポートのおかげで、大過なく過ごさせて頂いた。そんな私が、最近よく、公衆衛生学の助教になりたての頃を思い出す。昭和63年、岡山での産業衛生学会地方会で、私ははじめて、公衆衛生学研究者として、トリクロロエチレンの毒性研究を発表した。私は内科では、「化学発がんにおける前癌病変マーカーとして知られているエポサイド還元酵素の精製、特異抗体作成と、その動態」を研究していた。トリクロロエチレンもエポキシサイドを生成するので、内科から公衆衛生学へと教室を代わっても違和感は無かった。当時の学会場では、有機溶剤暴露者の生物学的モニタリングの研究が華やかだった。私の現在の講座の名誉教授であられる緒方正名先生が第一線で活躍されていた。

時代は移り、毒性研究はすっかり鳴りをひそめてしまった感がある。3年前、大阪の印刷工場で胆管がんが発生し、死亡者が出た。1、2ジクロロプロパン及びジクロロメタンが原因であるとされた。つづいて、昨年、12月18日福井県の染料や顔料の原料を製造する中堅化学メーカーの工場で、従業員、元従業員から5人が膀胱がんを発症していたとの報道があった。発がん性のあるオルトトリルイジンを含む複数の化学物質を扱っていたらしい。防毒マスクや集塵機を設置していたが、工場内には粉塵が舞っていて、床が白くなっていたとのことである。膀胱がんの発生機序とその対策は、そのうち厚生労働省の委員会から出され、産業衛生学会の許容濃度委員会が、答申を出して、一見落ち着くとなる。しかしながら、これでいいのだろうか。産業衛生学会は、現在の許容濃度委員会のあり方、既存の健康診断のあり方を含め、化学物資の毒性、発がんの問題に、再度予防の観点から、焦点を当てるべきである。メンタルヘルス一辺倒から脱却するときがきているように思う。

第25回 日本産業衛生学会 産業医・産業看護全国協議会



企画運営委員長

日新製鋼(株) ステンレス製造本部 周南製鋼所診療所 山本 真二

『開催報告』

平成27年9月16日から19日の4日間、山口県周南市において第25回日本産業衛生学会 産業医・産業看護全国協議会を周南市文化会館で開催した。今学会のテーマは「職場が元気になる産業保健の展開に向けて」とし、「職場が元気になる」をキーワードに743名の方々にご参加頂いた。

9月16日：四部会合同職場改善セミナーを日新製鋼構内にある製紙工場とクリーニング工場にて実施した。

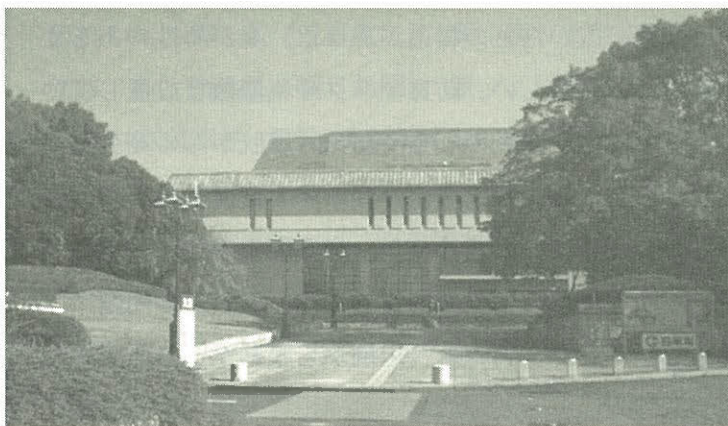
9月17日：四部会合同職場改善セミナー発表会に続き、実地研修は、製造業(東洋鋼板、マツダ)に加え、放送業のKRY山口放送、森林セラピー体験、地場企業のシマヤ、山縣本店にご協力頂いた。

9月18日、19日：基調講演は労働科学研究所の小木和孝先生よりメインテーマに沿って「職場を元気にする産業保健活動について」をお願いした。特別企画は厚生労働省の泉労働衛生課長より「ストレス



四部会合同職場改善セミナー参加者

チェック制度の施行に向けて」をお願いした。メインシンポジウムは「多様化するうつ病問題を解決して職場を元気にする? ストレスチェック活用の可能性を探る?」をテーマに、関心の高いストレスチェックの活用を大いに議論することができ、有意義なメインシンポジウムであった。その他教育講演5題、シンポジウム7題にも多くの方にご参加頂いた。また、今学会より四部会合同職場改善セミナー経験者向けの四部会合同職場改善セミナーアドバンスコースが新設された。その他、事例検討「メンタルヘルス復職困難事例への対応」、ポスター演題54題、合同開催(第24回産業衛生技術部会大会および第21回産業衛生技術部会専門研修会)、8つの自由集会のほか、学会企画として「編集委員長と話そう一査読者



周南市文化会館

との付き合い方」、産業看護部会主催の「産業看護部会模擬試験」が開催された。18日の夜にホテルサンルート徳山で懇親会が開催され約200名の方々にご参加頂いた。

最後に「職場が元気になる」企画に多くの方々のご参加を頂きました。参加者が元気になって自分の職場を元気にして頂けることを信じています。

『 参 加 体 験 記 』



公益財団法人 福岡労働衛生研究所

セントラル硝子(株) 宇部工場診療所担当 **朝 長 健 太**

2015年9月16日～19日に山口県周南市で開催された第25回産業医・産業看護全国協議会に運営実行委員として参加致しました。その視点で印象に残った内容につきまして、御報告致します。

17日の実地研修に関しまして、マツダ(株) 防府工場様へ担当者として参加させて頂き、多くの参加者の方々と車工場内の様々な工程を見学させて頂きました。塗装工程の有機溶剤密着化、組立工程の機械を利用した作業負担軽減、流れる様なジャストインタイム生産システムは、人と機械のセッションを見ている様でした。

見学後にもマツダ(株) 防府工場診療所産業医の杉山真一先生とディスカッションさせて頂き、日頃聴くことが出来ない、車工場での具体的な労働衛生対策について見識を深めることが出来たことは、参加者にとって有意義な研修と受け止めて頂けたのではないかと思います。杉山真一先生をはじめ、研修を受け入れて下さいましたマツダ(株) 防府工場の皆様、また、円滑な研修実施に御協力頂きました参加者の皆様に、改めて感謝の意を申し上げます。

メンタルヘルスに関する事例検討会は想定より多くの方に参加して頂き、実例に基づいたテーマで議論をして頂きました。18時以降という遅い時間ながら、熱気のあるディスカッションの中に居りますと、メンタルヘルスに対する問題意識の大きさと、それを何とか改善していこうという、参加者の皆様の熱意を感じることが出来ました。

18日からは本格的に学会発表、シンポジウム、教育講演が始まり、本当に多くの方に御来場頂きました。メンタルヘルスをはじめとして、多くのテーマがあるにも関わらず、どの部屋も多くの参加者で埋められ、労働衛生の幅の広さと、それぞれのテーマを参加者の方々が強い問題意識を持って取り組まれておられるのを感じました。

私としては、19日の「職場を元気にする腰痛対策」のシンポジウムに日立製作所ひたちなか総合病院の中谷敦先生とともに、座長として参加させて頂き、東京大学の松平浩先生、産業医科大学の中村英一郎先生、友和クリニックの宇土博先生方の労働衛生に則した腰痛対策の話を伝える一助が拙いながらも出来たかと思います。シンポジウムに参加して頂いた先生方、また聴講された参加者の皆様に感謝を申し上げます。

会期中雨天もあったものの、17日からは晴れ間があり、18日、19日は秋晴れの中、開催することが出来たことは嬉しく感じております。昨今の報道を見ると労働衛生対策を十分に行わないことによる労働災害が社会的にも認知されてきており、労働衛生の重要性は益々増してくると感じます。

この度の全国協議会が参加者皆様の労働衛生対策向上に役に立つことと、労働災害が無くなることを祈念し、学会体験記の御挨拶とさせていただきます。

『ポスター優秀賞受賞報告』

北里大学医学部公衆衛生学単位 助教 江口 尚

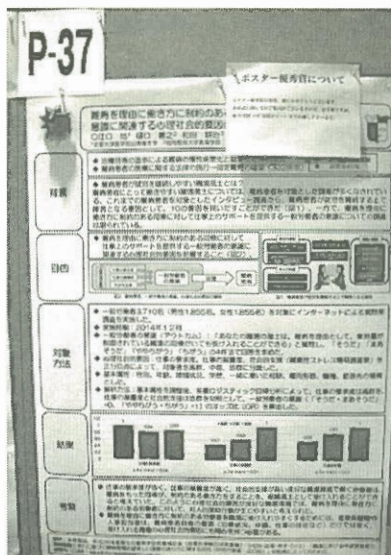


このたび、第25回日本産業衛生学会 産業医・産業看護全国協議会でポスター優秀賞を受賞致しましたのでご報告致します。

近年、わが国においては、難病に対する治療の進歩はめざましく、難病の慢性疾患化が進み、一定の配慮があれば就労可能な難病患者が増加しています。そのため、これまで、難病患者にとって働きやすい職場環境について、難病患者を対象とした調査が多くなされ、上司や同僚のサポートが重要という結果が示されてきました。一方で、難病を理由に働き方に制約のある同僚に対して仕事上のサポートを提供する一般労働者の意識については、これまであまり調査がなされていませんでした。そこで、本研究では、この一般労働者の意識に影響する職場環境としての心理社会的要因(仕事の要求度、仕事の裁量度、上司・同僚からのサポート)に着目して調査を実施しました。その結果、仕事の要求度が低く、仕事の裁量度が高く、上司・同僚から多くのサポートが得られるような良好な職場環境で働く一般労働者は、難病をもった同僚が、制約のある働き方をすることをより受け入れています。このことから、職場環境は、難病を理由に働き方に制約のある労働者を職場に受け入れに影響している可能性があり、人事担当者や産業保健職は、難病患者自身の要因(治療状況、体調、仕事の技術など)だけではなく、受け入れる職場の職場環境にも関心を持つ必要があると考えられます。



以上が、今回受賞した研究の概要です。今後、労働力人口が減少する我が国において、企業や行政は、難病患者だけではなく、高齢者や女性、障害者など、働き方に制約のある方々の活用は避けて通れません。



そんな中、産業保健職が、そのような労働者の職務適性評価を行う機会が増えるでしょう。今後は、産業保健の現場に役立つ情報発信ができるように、今回の受賞を励みに、産業保健の視点から、難病患者の就労支援についての研究活動を続けて行きたいと考えております。産業医部会の先生方におかれましては、今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

※本研究は、平成26年度厚生労働科学研究費補助金「職域における中途障害者の実態調査とそれに基づく関係者間の望ましい連携のあり方に関する研究」(研究代表者・江口 尚)の助成によって実施しました

(研究班URL: <http://www.med.kitasato-u.ac.jp/~publichealth/syuroushien>)

第13回 日本産業衛生学会・四部会合同職場改善セミナー

『基礎コースおよびアドバンスコースの開催報告』



宇土 博



落合孝則

友和クリニック 宇土 博
東京工業大学 落合 孝 則

第13回職場改善四部会合同セミナー基礎コースおよびアドバンスコースが、2015年9月16日～19日に周南市で第25回日本産業衛生学会全国協議会の企画として行われた。

この企画は、職場巡視を通して産業保健の柱である職場改善のスキルを習得することを目的としている。基礎コースは、これまで13回目のロング企画で、延べ500名余が参加し、全国協議会の主要な企画となっている。

1. 基礎コース：職場が狭いことから定員40名に絞った。このコースは毎回好評で、今回も定員をオーバーし断る状況であった。

9月16日 参加者は5班に分かれて、日新製鋼構内の周南紙業(株)製紙工場、新和企業(株)クリーニング工場の職場巡視を行い、職場の改善すべき問題点や今後の産業保健活動に生かす良い事例を取材後、グループ討議でプレゼンの準備を行い、翌9月17日(木)5班からの報告会が行われた。

報告会には、職場の関係者も出席し、プレゼンに対して講評が行われた。

プレゼンは、実現可能な対策提案が多くなされ、そのいくつかは、講評した支社長・安全衛生担当者により実行されることが表明された。こうした企業の講評がこの四部会合同セミナー参加者の緊張感を高め、職場改善スキルの向上に寄与しています。

職場改善スキルは、産業保健関係者の核心的なスキルの一つであり、今後も、職場巡視と改善提案の企画が継続されることが望まれる。

産業医の山本先生の話では、今回のセミナーは、企業にとって大きな刺激になり、職場改善が多く取り組まれ、大変好評でした。

新和企業(株)周南支店 様
4班(洗浄・乾燥工程)発表



図1. 4班の発表

はじめに:よかった例



図2. 良かった例

対策提案③:不良姿勢対策



図3. 改善すべき点

2. 第1回 アドバンスコース

9月18日(金) 13:30~18:00まで、周南市保健センターで行われた。

このコースは、四部会職場改善セミナー基礎コースを引き継ぎ、実践的な職場改善を行うためのセミナーである。

1) 産業保健専門職として、職場で働く人が安全・健康・効率的に働くための職場改善を進めるファシリテーターとしてのスキルを習得し、グループワークによる職場改善を進めることを目的とする。

2) そのスキルには、①アクション・チェックリスト等の基礎となる職場改善の原理と改善事例の理解、②グループワークによる職場改善の進め方などが含まれる。

対象者：より深い職場改善スキルを習得したいと希望する日本産業衛生学会会員。

(1) 企画内容

- ① 課題職場のビデオ等を教材として、事前に参加者に配布し、問題点と改善案を個人で検討し、パワーポイントで7枚程度にまとめて、送ってもらい、会場でプレゼンして、改善対策をグループワークする。
- ② 参加者の改善提案と主催者側の改善提案を突き合わせて、合同検討して、最終的な改善提案を職場に返します。
- ③ 会場には、課題職場の関係者も参加してもらい、改善提案に対する講評を受けます。

(2) 今回の事例：白ネギの加工・出荷作業の改善……コンベアも加えた、白ネギ加工の組作業(流れ作業)を事例に取り上げて、改善案を検討し、これによって、多くの職場で問題となっている「流れ作業」の改善スキルを習得した。

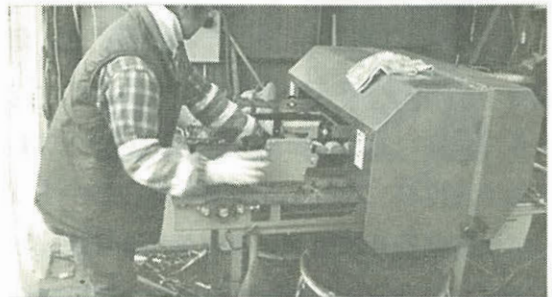
全体のスケジュール

- 13:30~13:40 主催者挨拶
- 13:40~14:20 人間工学・衛生工学の基礎知識の講義
- 14:20~14:50 課題職場の概要説明と放映
- 14:50~16:20 ビデオを見て、良好な事例、問題点の整理を行い、対策を検討する。

プレゼンの準備

- 16:20~17:20 プレゼン、討議。講評。
- 17:20~18:00 交流会(軽食、飲料)

根切り作業



皮むき作業



皿ばかりでの秤量作業



図4. 白ネギ加工作業の概要

図5. セミナー風景



参加者は、22名であった。このうち、2名は、職場のスタッフで、広島県農業指導所の延安氏および広島県北部JAの宮木氏であった。3班に分かれて、活発なグループ討議が行われ、多様な問題点の指摘と改善案が提案された。

新しい試みである「流れ作業」の改善案が活発に討議され、農家に対して、具体的な提案が行われた。

会議に参加された、白ネギの関係者からは、セミナーでの具体的提案を受けて、大変興味深く、改善案の具体化を検討したいと述べられ、高く評価された。

2班 第1回職場改善セミナー・アドバンスコース 広島県立総合技術研究所 横山 龍蔵
白ネギの加工・出荷作業の改善

良い点(1)

ネギの挿入口が
斜めになっていて
中の様子が見やすい。

やや距離は前傾だが
覗き込むような不自然な姿勢
はなさそう。



改善点(1)



バッファの位置が低く、遠いため、捻りの前屈姿勢になる。
バッファの位置を近くにするのはできないか？

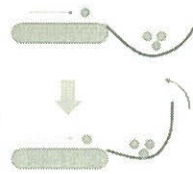


図6. 白ネギを搬送するコンベアの末端部のバッファー（緩衝部）が低いため前屈姿勢になる。バッファの形状を高い位置に変える。

改善点(1:作業工程の見直し)

- ・調整作業や秤量作業をなくす
(製品の性質上も不要で製品に触れる機会も減り品質も向上)
- ・コンベアの廃止
(リスク低減、電気料金安)

改善点(2:作業場のレイアウト)

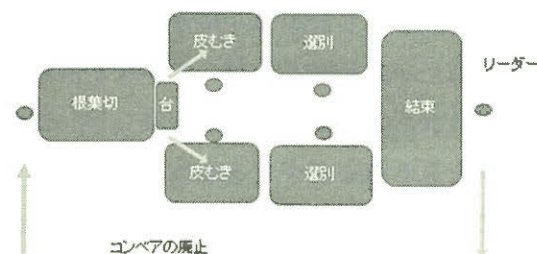


図7. 改善提案：動線を短縮し、コンベアを廃止するなどの工程の見直しの提案。

これらの提案は、農家にも送られ、後日、宇土および延安氏が訪問して改善会議を持つ。その結果、カゴの手前が、取り外せ、ネギの束が直立姿勢で容易に取り出せる改善が行われた。

皮むき機から放出される粉塵を含んだエアーの室内汚染の問題は、次の作業場の移転時に外壁に穴をあけて、ダクトで外部に導出することが決められた。

このように、今回のアドバンスコースのセミナーは、農家の職場改善の動きを刺激し、改善の機運を盛り上げる動因になり、大きな成果を得たと考えられる。

第2回のアドバンスコースは、第26回の京都での産業医全国協議会で開催予定である。職場改善に関心のある皆さんの参加を呼びかけます。

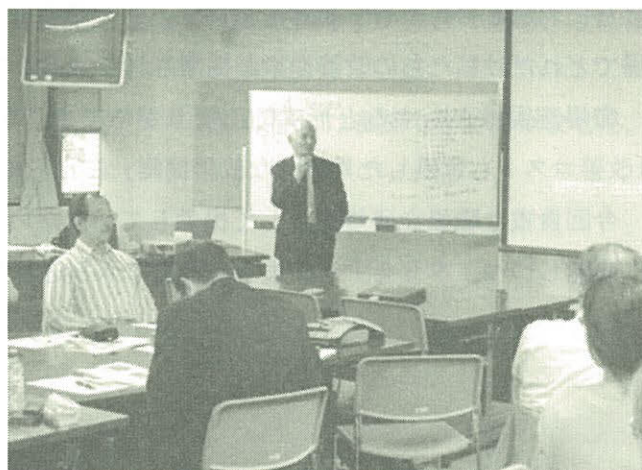


図8. 小木先生によるコメント

『基礎コース 参加体験記』



曙ブレーキ工業株式会社 健康推進室
統括産業医 柚田 望

本セミナーは若干の中毒性があり、私のようにハマってしまっている方もちらほらお見かけするようになった。セミナー自体は今回で13回目の開催であり、私は7回目の参加となった。本セミナーの特長として数回参加した参加者は実行委員という立場となり、運営に携わったり、グループの取りまとめをしたりという能動的な参加が可能という点である。私も2～3回目から実行委員という立場で参加しており、とても良い勉強になっている。本セミナーの中毒性のひとつは研修という大義名分の元、他社の生の現場を見ることができるということである。産業保健における諸問題は事例性が高く、どれだけ多くの現場を見たことがあるかはとても大切だと感じている。特に、職場巡視や改善提案といったジャンルは「場数」が大切であるが、なかなか他社の現場を見ることはできない。見ることもできたとしても小学生の社会科見学のような「企業見学」に終始することもあり、見学ルートからは見えない作業者の声や様子を見ることができる点では他のセミナーにない魅力がある。さらには産業保健にかかわる様々な職種の方と2日間行動を共にすることで考え方・感じ方の違いを体験し、実現可能な改善提案を取りまとめ、企業の方にフィードバックしていただくというのなかなかできない体験である。

さて、今回のセミナーでは古紙の再生処理を行う企業と衣服のクリーニングを行う企業の2社で研修させていただいた。どちらの企業も社員は50名未満であるが、職場の随所に安全衛生上の工夫があり、感心させられた。参加者からの質問にも企業の担当者および作業の方々より丁寧に説明していただいた。研修会場に戻った後は6つのグループに分かれて、現場で撮影した写真を元に「良好事例」も含めた職場改善の提案を議論し、最終的には「良好事例」3つ、「改善提案」3つ(さらに低コスト、高コストの対策)を研修時間ぎりぎりまで議論を交わしながらまとめた。翌日の発表では2社の担当者の方も会場にお越しいただき、講評を頂いた。その講評はおおむね良好であったが、真の評価は今頃2社の現場でどれだけ私たちの改善提案が採用されているかであろう。

職場巡視はともすると形式的になりがちであるが、本セミナーで培った「良好事例」の指摘および「改善コストも意識した具体的な改善提案」は自らの所属企業での職場巡視でもとても役立っている。

今回貴重な職場を研修先として提供していただいた周南紙業株式会社および新和企業株式会社の皆様に感謝しつつ、本セミナーのように現場に入り込んだ即戦力となる企画を今後も期待している。

地方会からの報告



『北陸甲信越地方会産業医部会研修会 参加体験記』

株式会社 高山産業医事務所

産業医 高山 英之

2015年10月24日・25日に新潟県にて北陸甲信越地方会が開催されました。さて私は福井県で産業医活動を行っております。今回は新潟で開催されますので、同じ北陸とはいいながら片道400km弱と日帰りで参加できるわけでもなく、ちょっとした旅行といった感覚で参加しました。今回北陸新幹線を利用しましたが、残念ながら乗継が悪く新潟へのアクセスはいまひとつといったところでした。

さて初日の24日は「ストレスチェック解析結果に基づく面接指導および職場改善の進め方」のタイトルで、石川県の服部先生・田畑先生がグループ演習の形で、セミナーを開催されました。ストレスチェックを実施するに当たり、今後の運用に不明な点がところどころありますが、今回はその中でも、①高ストレス者の選定、②集団分析と職場環境改善にポイントを絞ってありました。①高ストレス者の選定については、次年度以降課題になると思われるカットオフ値の設定について具体的なお話をしていただき、②については先生の経験に基づいた事例を提示いただき、大変わかりやすく、グループワークも大変盛況でありました。

2日目・25日の一般演題では、キノコ栽培による過敏性肺臓炎の症例報告が2題ありました。私の不勉強もありますが、福井では耳慣れない新潟ならではの症例について興味深く拝聴いたしました。また福井大学の金山先生からは気候療法についての発表がありました。こちらは後日雑誌にも掲載され、福井県内の新聞にも取り上げられ、今後の展開が楽しみです。

午後の特別講演は、新潟県醸造試験場の渡辺場長より「酒造りと新潟の酒」、新潟大学医学部の曽根教授より「事業場を中心とした糖尿病・生活習慣病の予防と管理」の講演をいただきました。北陸は各県有名な酒蔵がありますが、やはり新潟は特別です。今回は特に技術的なところに焦点を当てており、原料の米・酒造りの工程について細かく説明がありました。生来人に流されやすい性分のため、この講演のあと新潟のお酒を飲むことが増えました。

地方会にはこまめに参加するようにしておりますが、残念ながら山梨の会には参加できておりません。いずれ山梨に行ってワインをいただきたいですね。

『九州地方会産業医部会研修会 参加体験記』



京セラ株式会社 鹿児島川内工場
産業医 沖田 信夫

メインテーマは「ストレスチェック制度を効果的に運用するために知っておきたいポイント」でした。昨年12月に施行されて以降、各種説明会を聴講しましたが、さらに知識が深まればと考え、本研修会に参加させていただきました。

第一部は、産業医科大学の廣 尚典教授から「産業医の立場から」と題して、本制度の概要、制度の難しさおよび対策の再構築についてお話がありました。本制度の主旨はメンタルヘルス不調の一次予防ですが、指針を読み進めると実務上精神障害の一次予防を目的とせざるを得ないとも解釈できます。ともすれば高ストレス者の選定に目が行きがちになり、集団分析を職場の成績表ととらえてしまうと本来の目的から外れてしまい、制度を歪めることにもなりかねないとの危惧を示されました。したがって、本制度を従来行われてきた復職支援手引きや長時間労働対策などのメンタルヘルス対策の流れの中で捉えることで、産業医をはじめ産業保健スタッフを中心に職場とともに知恵を出し合い、メンタルヘル스에明るい企業風土を作っていくことの重要性を強調されました。

第二部は、近畿大学の三柴 丈典教授から法律家の立場で「法的留意点」と題し、産業医は実施者になるべきか、実施者となった産業医等のふるまい(消極・積極)に伴う法的責任、健康管理上必要な措置と禁止された不利益措置の関係および受検者のプライバシー・個人情報など法的な面での疑問点と、それらに対する回答を提示されました。

印象に残ったことは、医療人として積極的に関与したことに対する法的な責任は問われないことが多いということでした。今後産業保健活動を行う上での礎とさせていただきました。

一方で、嘱託産業医などやむを得ず消極的な立場をとらざるを得ない先生方については、メンタルヘルスに強いスタッフを養成するよう主導することが、本制度の法的要件をクリアするために大切であるという内容も印象的でした。産業医として保健を目的とした組織内の調整に関わることの重要性を再認識させていただきました。

今回もあっという間の2時間半でした。毎回タイムリーなテーマでの研修会なので、日頃の活動に生かすことができ非常に助かっております。本会の開催に際し、ここまでご尽力された諸先生方に深謝いたします。



ディスカッション風景

第89回日本産業衛生学会(福島市)にて開催予定の 産業医フォーラムの御案内

東北地方会産業医部会幹事

東北大学 環境・安全推進センター 色 川 俊 也

今年も、例年のように、産業衛生学会期間中に産業医部会主催の産業医フォーラムを開催いたします。労働安全衛生法が改正され、「ストレスチェック制度」が義務化されるなか、産業保健の分野ではこれまで以上に産業医と精神科医の連携強化が必要とされることが予想されます。今回のフォーラムでは、「産業医と精神科医の連携」をテーマに、工藤康嗣先生、清治邦章先生から専属・嘱託産業医の立場で、また高野知樹先生から精神科医の立場で、互いの連携の実際と課題についてお話しいただき、更に、廣尚典先生から、両者の連携を研究する立場からというテーマでお話しをいただきます。演者の先生方の御講演内容も踏まえ、当日の参加者で活発な意見交換を行いたいと考えております。皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

日 時：平成28年5月27日(金) 14:30～17:00(総会30分程度も含めて)

会 場：A会場(福島県文化センター大ホール)

テーマ：「産業医と精神科医の連携」

座長：関東地方会産業医部会幹事：福本正勝先生

東北地方会産業医部会幹事：色川俊也

1. 専属産業医の立場から
2. 嘱託産業医の立場から
3. 精神科医の立場から
4. 職域と精神医療の連携を研究する立場から
5. 総合討論

TDK専属産業医 工 藤 康 嗣 先生

仙台産業医オフィス所長 清 治 邦 章 先生

神田東クリニック院長 高 野 知 樹 先生

産業医科大学精神保健学教授 廣 尚 典 先生

第26回日本産業衛生学会全国協議会（第2報）**メインテーマ「変革期を迎えての産業保健の協働」**企画運営委員長 **久保田 昌 詞**(大阪労災病院治療就労両立支援センター)実行運営委員長 **中 西 一 郎**(東レ滋賀事業場)

1. 会期：平成28年(2016年) 9月8日(木)～9月10日(土)

2. 会場：京都テルサ 〒601-8047 京都市南区東九条下殿田町70番地

3. 日程：9月8日 事業場研修

9月9日～10日 12のシンポジウムと6つの教育講演、施設内研修、ポスターセッション等

懇親会は9月9日夕刻に予定

4. 演題の公募：

シンポジウムのうちストレスチェック、ダイエット、中小企業・非正規雇用、データヘルスをテーマとする計4つのシンポジウムでは演題を公募します。

5. 申込受付：

宿泊申し込みサイトはオープンしております。演題登録は2月下旬より開始予定です。参加申し込みは少し遅れてオープンします。

詳細はホームページ <http://www.c-linkage.co.jp/ncopn26/> をご覧ください。

教育講演1： 感染症

教育講演2： 科学的根拠に基づくメンタルヘルス不調の1次予防

教育講演3： 精神科一般

教育講演4： 認知行動療法

教育講演5： 遺伝子検査

教育講演6： 化学物質

メインシンポ：4部会長による

シンポ1：女性労働

シンポ3：産業保健と福祉との協働

公募シンポ5：中小企業・非正規

シンポ7：シフトワーク・過重労働対策

シンポ9：健康経営

シンポ11：がんと就労支援【近畿医部会共催】

公募シンポ2：ストレスチェック

公募シンポ4：ダイエット

シンポ6：転倒防止対策

公募シンポ8：データヘルス

シンポ10：受動喫煙

実地研修は、事業場研修5箇所と施設内研修（日医認定産業医単位）3枠×2回ずつを予定しております。

シリーズ 私たち頑張っています！



『現場を知り現場から学ぶ』

(関東地方会)

三井物産株式会社

産業医 横山 雅子

非常勤産業医として他社での勤務歴はあるが、現在の三井物産専属産業医としては1年なので所信表明を書かせていただく。ご縁あって皇居に隣接した本社に常駐することになった。お話をいただいたときに、これまでの神経内科・救急部・総合内科で27年間培ってきた臨床経験とは違う視野の分野か？とかなり悩んだが、何事も経験だとチャレンジ精神で入職させていただいた。

当社に勤務する社員は約6000人。うち1000人ほどが海外に常駐している。医療事情は各国で異なり、各地から様々な相談も飛び込んでくる。その真剣さが伝わってくるのでこちらも精一杯対応する。十分臨床の経験は生かされている実感がある。35人の非常勤医師が担当する社内診療所の外来も行っている。治療の醍醐味も有難く継続している。当社は洗練的なイメージの中にどこか牧歌的な雰囲気があり、のびのび仕事をされている人も多い。医者自分では想像もできないような大きなスケールの仕事を、社員さんたちが持ち前の頭脳と粘り強さでこなされていくその黒子でいられるのは幸せなことだと思う。

三井グループ31社の会があり、そのお付き合いで他社の産業保健の方々とご一緒すること多いが、会社ごとに産業保健の歴史があり、大事にしているものも違うことに気づく。これまで大学等からの派遣でいろいろな会社に非常勤産業医という立場で数社に数時間ずつ赴任させていただいた経験もあるが、専属産業医は社員となる分、まったく会社の見え方が変わってくる。①健康診断の実施とその結果に基づく措置、②作業環境の管理・改善、③作業の管理、④そのほかの健康管理、⑤健康教育・健康相談、⑥健康の保持増進を図るための措置、⑦労働衛生教育、⑧長時間労働者への面接指導、⑨健康障害の原因調査・再発防止の医学的措置、⑩職場巡視など多岐にわたる産業医業務の中で何を優先し考えていくのか、正解のない案件にどうぶつかっていくのか、試行錯誤の毎日である。

長時間労働者の面談・ストレスチェック・コラボヘルス等必須の業務がどんどん増えて、どの企業も画一的な産業保健にならざるを得ない傾向にあるが、当社の良さと強みを大切に守りながら自分の職務を全うしていこうと思う。「現場を知り現場から学ぶ」を目指しながら日々医学知識の研鑽精進を心がける、そんな産業医であり続けたい。



健康管理室のメンバーとともに

『ところ変われば』



(近畿地方会)

大阪ガス(株) 人事部健康開発センター

産業医 富 永 なおみ

平成25年4月から大阪ガス(株) 産業医をしている富永です。以前は大阪府警察の常勤産業医をしていました。警察からガスという全く違う環境で、新たに学ぶことが多くあります。

まず驚いたのは、大阪ガスでは健診を受けたその日のうちに結果説明と事後措置までを実施していることです。

毎日80人余り、年間約1万7千人の社員が健康開発センターで定期健康診断や特殊健診を受診します。

検尿、採血、身体測定、視力、聴力、眼圧、眼底検査、腹部超音波検査、胸部レントゲン、胃部レントゲン検査、骨密度、心電図、歯科検診を行います。項目は年令、会社や本人の希望によって違いますが、例えば8時30分までに受付を済ませば、ほぼ10時頃には全ての結果が揃い、医師の診察のあと、看護職による健康教室(社内では「説教部屋」と呼ばれる?)があり、結果や紹介状を手渡します。

健診結果は医師が診察時に説明しますが、これだけでは受診者はなかなか理解されていません。その後の健康教室が醍醐味です。

その対象者は

- ・ 健診結果で生活改善が必要
- ・ 胃カメラ、大腸ファイバーなど精密検査が必要な場合や治療が必要な場合の医療機関の紹介や予約
- ・ 事前に入力したストレスチェックで高ストレス者
(場合によっては職場や上司、医療機関へつなぐ)
- ・ 特定保健指導対象者
- ・ 勤務制限がある社員、メンタルヘルス不調がある社員のフォロー
- ・ 入社2年目の社員のストレスチェックをもとにしたメンタルヘルスのフォロー、このほかにも年間重点実施施策の対象者も含まれます。
- ・ 若年者(39才以下) への禁煙指導
- ・ 若年者(25~39才) への将来高血圧になるリスクの説明
- ・ 昨年実施した若年セミナー(肥満対策) 参加者のフォロー



診察、結果説明



健康教室(説教部屋?)

結局は、ほぼ全員が何かしらの理由で健康教室を受けることになります。

外部の機関で健診を受けた場合、結果が手元に届く頃には興味がなくなっていることも多いのでは? なかには健診結果の封も開けず、そのままゴミ箱へポイということもあると聞きます。それに比べるとなんと手厚く、効率良い健診でしょう。大変ありがたい環境だと思います。

ところ変われば色々な面で色々な違いがあります。産業医もそれぞれの職場でそれぞれの環境に応じて工夫する。ところ変われば面白さも倍増です。

『“和・華・蘭”の街で頑張っています！』



(九州地方会)

三菱電機株式会社 長崎製作所
産業医 黒崎 靖 嘉

皆さんこんにちは。前回の寄稿は5年前の専門医試験合格記だったと思います。専門医として胸を張れる活動ができていたか自信はないのですが、機会を頂きましたので徒然なるままに書き連ねて参ります。

いきなり余談ですが、長崎で「三菱」と言えばそれは「三菱重工業株式会社長崎造船所」を指します。親しみを込めて「三菱さん」と呼ばれたりもします。そこで誤解を招かない様、自己紹介の際には「電機」を強調する様にしています。

弊所の主製品は新幹線等の列車用空調・大型映像装置(オーロラビジョン等)・駅のホーム柵・非常用発電装置等です。社員数は700名ほどですが、担当している関連会社が10社近くあるため、合計すると2700名ほどをフォローしています。さらにややこしい事に工場地区が2ヶ所に分かれており、一日おきに各地区へ出務しています。つまり2700名を週5日で担当するのではなく、1300~1400名ほどを週2~3日で担当しているとお考え下さい。着任からもうすぐ10年目ですが、いまだに日常業務で手一杯です。そんな現状を会社も理解してくれたのか、なんと産業医の増員を図る事となりました。求人活動が新たな悩みにもなっていますが。

そんなややこしい状況ですが、各社の事業が全く異なるため(製造業、ソフトウェア開発業、飲食業や介護業もあります)、有害業務も幅広くバラエティーに富んだ日々を送っています。毎日脳ミソがフル回転なのでボケる心配はなさそうです。通勤方法が各地区で異なる(自動車と徒歩)のも気分転換に良いかな?と感じています。

話を広げますと、長崎県は中央にある「県央(大村・諫早)」から県南西部の「長崎市」、北西部の「佐世保市・県北」、南東部の「雲仙・島原・小浜」と放射状に広がっています。壱岐・五島・対馬等の離島も多くあります。そのためか長崎県には産業医のネットワークが存在しない様です(大きな企業が少ないのもあるでしょうが)。そこで一念発起し長崎の産業医のメーリングリストを立ち上げました。しかしメンバーがまだ3人しかいません(2015年末時点)。こちらメンバー募集が課題です。

2015年は人の繋がりを意識する機会をいくつも頂きました。一人で仕事をしていると孤独感を感じる事も多いため、大変ありがたいです。

研究活動については、興味のあるテーマはあるもののまとまった時間が取れず、基礎知識の勉強に留まっています。これもまた課題です。

私事では、2016年は不惑を迎えます。本当に「徒然なるまま」に書いたもので、うまいまとめが思いつかないのが現在進行形の惑いでしょうか。「自分だからできる事」「長崎だからできる事」を考えながら、日々を大事に過ごしていこうと思います。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

産業医部会、各地方会 行事開催予定一覧(平成28年4月～)

開催 年月	産業医部会	地方会	名称	日時・開催地
平成 28年 5月	平成28年度 第1回幹事会			平成28年5月25日(水) 14:00～17:00 会議室2(福島市音楽堂1階 第5練習室) 第89回日本産業衛生学会会場内(福島県)
	第89回日本産業衛生学会 産業医フォーラム			平成28年5月27日(金) 14:30～17:00 A会場(福島県文化センター 大ホール) 第89回日本産業衛生学会会場内(福島県)
	専門医制度関連	社会医学系専門医制度 シンポジウム		平成28年5月26日(木)15:00～17:00 第89回日本産業衛生学会会場内(福島県)
		社会医学系専門医制度 指導医講習会		平成28年5月27日(金)午後 第89回日本産業衛生学会会場内(福島県)
8月	会報 第58号(平成28年8月号)発行予定			
	専門医制度関連	(日本産業衛生学会 専門医試験)		平成28年8月27日(土)・28日(日) 横浜オンワード総合研究所
9月	第26回日本産業衛生学会 全国協議会			平成28年9月8日(木)～10日(土) 京都テルサ(京都府)
		近畿 地方会	近畿産業医部会 研修会	平成28年9月10日(土)午後 京都テルサ(京都府)
11月		中国 地方会	中国産業医部会 研修会	平成28年11月26日(土)
		北陸甲信 越地方会	北陸甲信越地方会 産業医部会総会	平成28年11月26日(土)14:00～16:00 福井市 ハピリン ※総会議事 11:30～12:00

内容等	その他
テーマ 「産業医と精神科医の連携」 11 ページ参照	
テーマ 「社会医学系専門医と産業衛生学会専門医の現状と展望」	昨年「社会医学系の専門医制度に向けての協議会」が正式に結成され、現在社会医学系専門医の制度構築のために協議されています。社会医学系専門医の目的や理念など、協議会で検討されている制度の内容、また社会医学系専門医発足後の日本産業衛生学会の専門医位置づけ、解決すべき課題等の内容にて開催されます。
	社会医学系専門医制度指導医講習会は、社会医学系専門医制度の指導医になるための必須の講習会となります。現在、日本産業衛生学会専門医制度指導医の方はこの講習会を受講することで社会医学系専門医制度の指導医となることを予定しています。
・受験申請書類配布開始…4月1日～ ・資格審査受験申込受付期間…5月1日～5月31日 ・委員会の承認…7月上旬～中旬 ・受験資格審査結果と試験実施要領を本人へ通知…7月末日まで ・資格認定試験の合格発表…9月2日(金) ・専門医認定証交付式…9月8日(土)～10日(月) @第26回日本産業衛生学会全国協議会 会場にて	現行の日本産業衛生学会専門医試験は、平成28年度(2016年)が最終回となります。旧制度での研修中(旧制度手帳で研修中)の方は、今回受験下さい。
12 ページ参照	
介護施設の職場改善対策について	第 60 回中国四国合同産業衛生学会
パネルディスカッション 「ストレスチェックに取り組む」(仮題) 座長 松原六郎・福井県常任理事	第 59 回北陸甲信越地方会との共催企画開催



新部長挨拶

東海地方会

『学会活動から学んできたこと』

三菱重工 大江西健康管理科 石川 浩二

地方会新部長としての抱負を、他学会も含む学会活動の自己紹介を通して述べさせていただきます。

学会デビューは、中部労災病院での臨床研修2年目で、週1日産業医業務を開始し、そこでのアンケート結果の報告でした。メンタルヘルス対策が重要性を増し始めた頃で、心療内科の芦原部長からご指導を受け、心身医学会中部地方会で学会発表デビューを果たし、その後同学会総会、本学会総会、産業ストレス学会でも発表を繰り返しました。心療内科外来も担当し、交流分析学会、自律訓練学会、東洋心身医学会等でも、1例報告等も含めて発表の機会に恵まれました。

そう突き進んでいると、心療内科関連学会で、芦原先生のお力で種々の評議員に就任、その後本学会や産業ストレス学会の代議員、評議員にも就任させて頂きました。好き好んでなったのではなく、なってしまったという状況で、弁当を食べて議決に参加する程度で時は経過しました。しかし、産業ストレス学会理事、常任理事への就任で大きく変化しました。学会へ毎年参加、発表し、研修委員等の下働きはしましたが、活動の評価ではなく、今まで同様の流れで本当に恐ろしいものだと感じました。名だたる先生方の中で、40歳前の若造が教育研修委員長の仕事を何とか終え、その後広報委員長でホームページ等の担当しております。心療内科学会では、東日本大震災被災地支援委員会の副委員長を拝命し、甚大な被害を受けた陸前高田市の診療支援へ5回赴き、診療録のデータベース化等を担当しています。

本学会では、歴史ある東海地方会ニュースの編集委員長を本部長の斎藤政彦先生直々に依頼され、担当させて頂きました。第23回全国協議会では、斎藤企画運営委員長のもと、運営実行委員長の大役を担当させて頂きました。企画運営委員長はシンボリックな存在で、事務局長(運営実行委員長)が1番大変、という印象でしたが、この時は斎藤先生が半分以上の仕事を果たされ、改めて斎藤先生のパワーを実感しました。また、愛知県産業医懇談会(愛産懇)という団体があり、斎藤先生が当時担当されていた代表世話人も、後を頼む! ということで担当しました。

陸前高田市・「希望の架け橋」と「奇跡の一本松」

そのニュース編集委員長と、愛産懇代表、それぞれようやく軌道にのってきた、と思っていた矢先、出てきた話が今回の産業医部会幹事、東海地方会産業医部会長への就任でした。本医部会報の編集のお手伝い程度で、今のところまだ大した仕事は出来ていませんが、やるからには多いものにできれば、と思います。東海地方は、産業保健活動も盛んな地域です。前岩田先生が築いて頂いたものを汚さないよう、より活性化に尽力していきたいと思っています。



産業医部会活動費納入のお願い

日頃は、日本産業衛生学会産業医部会の活動にご理解・ご支援を賜り、まことにありがとうございます。皆様のおかげをもちまして、部会員数が千名を越えました。職能集団としての学会内での存在が確かなものとなると同時に、より活発な活動を求められると気を引き締めております。また、主要な行事でした産業医・産業看護全国協議会が、今年度から、産業衛生技術部会が正式に加わって四部会共催となり、名称も『日本産業衛生学会全国協議会』となって開催されます。

産業医部会の活動は、主に学会本部からの助成金と、皆様方の活動費によってまかなわれています。活動費納入依頼が届きましたら、よろしくお願いします。

常に部会員のための部会活動を心がけております。是非多くのご意見を賜りたく思います。各地方会選出の幹事へご要望を伝えていただければ、幹事会に反映させていただきます。今後とも、ご指導・ご鞭撻よろしくお願いします。

平成28年4月

部会長 斉藤政彦

編集委員会よりお知らせ

- (1) 部会報をホームページへ掲載しています。URL <http://www.on-top.net/ibukai/kaiho.html>
第53号(平成26年12月8日発行)から、部会報は産業医部会のホームページへ掲載しております。
投稿いただいた記事や写真につき一部削除などを希望される方は、下記連絡先までご一報ください。

【連絡先】

産業医部会長 斉藤政彦 大同特殊鋼(株)

電 話 052-611-9437

Eメール m-saitou@ct.daido.co.jp

- (2) 幹事会議事録は、第56号(平成27年11月20日発行)より部会ホームページへ移転いたしましたので、ご了承ください。URL <http://www.on-top.net/ibukai/jigyo.html>
- (3) 自由投稿へのいざない
部会報は部会員の交流の場です。ご自身の産業医活動あるいは日頃思っていることなどを800字以内にまとめて、事務局宛てメールにてご送付ください。ご投稿をお待ちしています。
- (4) ご意見をお寄せください。

編集委員会では、部会員の皆さまのご意見を参考にご期待に沿えるよう紙面の充実に努めてまいりますので、ご意見など、ぜひ事務局までお知らせください。

編集後記

このたび、本号の編集責任者を担当させて頂きました。原稿執筆依頼、回収、督促、校正、まだなかなかスムーズにいきませんが、何とか先生方のご協力のもと、無事発行に至りました。地方会ニュースの編集担当経験はありましたので、昨年5月の幹事会で本編集委員に任命された時は、地方会ニュースと同じようなものにすればいいのだろう、と漠然と思っていました。しかし今回改めて、地方会ニュースとは異なる医部会報の特徴について考えてみました。

読者、執筆者とも全員医師、しかも産業医学に関与している医師であること。それ故、一定のレベル以上の常識、学識、知見があること。その結果、医部会報そのものも、その特徴を活かした内容にしていくのも1つと思いました。ただ一方で、交流、情報交換の場、というアットホームな内容の方が気軽に読める、ということも重要かと思い、結局自分の中でも結論が出ませんでした。編集委員の仕事をしながら、また考えていきたいと思います。執筆のご依頼時などは、またご協力のほどよろしくお願いいたします。

(K)

事務局連絡先・投稿先

公益社団法人 日本産業衛生学会 産業医部会事務局

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-29-8 公衛ビル内

TEL: 03-3358-4001 FAX: 03-3358-4002

E-mail: sanei.4bukai@nifty.com

編集委員会委員

○石川 浩二 (三菱重工)、彌 富 美奈子 (SUMCO)

◎谷 山 佳津子 (朝日新聞)、原 俊 之 (北海道労働保健管理協会)

◎: 編集委員長、○第57号編集担当 (五十音順)